

あだち まさみ  
安達 正美

## 海底炭鉱 軍艦島

●日本郵政グループ労働組合  
(JP労組)・書記長

新しい年を迎え、今年はどんな一年になるのか様々な思いを抱いていると思います。

昨年秋に、今では世界遺産に登録された炭鉱で有名な長崎の軍艦島（正式名 端島）を舞台にしたドラマが始まりました。

端島炭鉱の歴史は古く江戸時代後期、漁民が漁の合間に「磯掘り」としてあちこちに露出している石炭を採取していた事に始まり、明治初期に小規模な炭鉱としてスタート、明治中期には三菱が10万円（現在の約20億円）で買い取り、本格的に石炭の採掘がはじまりました。この頃日本では鉄道や船舶など、蒸気機関の燃料として石炭の需要が高まりはじめた時代。1930年代には家電が整った集合住宅でのくらしが当たり前だったそうです。

世界大戦後、労働環境が改善され、賃金の改善や福利厚生の実施も伴って人口も急速に増加していきます。1960年代は、世界最大の人口密度（当時の東京の約9倍）に。これは世界一の記録で、今現在も破られていないようです。

1960年代は、池田内閣により推し進められた「所得倍增計画」により、一億人の日本人のほとんどが中流の生活をしていると認識していた、いわゆる「一億総中流」時代。三種の神器（冷蔵庫、洗濯機、白黒テレビ）か

ら新・三種の神器（ななめドラム式洗濯乾燥機、ロボット掃除機、食器洗い乾燥機）が普及し、誰もが教育を受けることができ、同じ品質の衣服を誰もが着ることができるなど、格差が少ない時代が到来します。

1930年代の端島の生活水準にほとんどの日本人が追い付いた時代。

最盛期は狭い敷地に約5,300人の島民が生活していた端島は賃金の上昇と同時に炭坑の稼働率が低下。石炭から石油へのエネルギー源の移行が進み端島は1974年に閉山に至りました。

さて、一億総中流から1980年代高度成長期を経て1990年バブルが崩壊し、日本の労働環境に非正規雇用者の割合の増加や所得格差が生まれ始めます。厚生労働省のデータによると、2004年の31.4%に対して2023年では37.1%と20年で約6%増加しています。

また、少子高齢化が進むことで、労働力人口の減少や社会保障費の増大といった問題が顕在化し、2025年問題と言われる今年、団塊世代が後期高齢者となることで、日本の人口の約5人に1人が75歳以上の後期高齢者となり、65歳以上の高齢者が約3人に1人に達する見込みです。この高齢化の進行により、医療や介護、年金など、社会保障制度へ



の影響が懸念されています。

一方で少子化が進行し、子ども（15歳未満）の割合は低下し続けています。この現象は日本に限らず、多くの先進国で見られ世界の出生率の低下も危惧されています。とりわけ日本は、少子高齢化の進行速度が特に速いため、その対策に国内外の関心が高まっています。

そのため、あらゆる領域でDXが進みつつあり、デジタル技術は距離や時間の制約にとられず、不足する労働力をAIの活用で補うことができます。日本郵政グループにおいてもユニバーサルサービスの安定提供や、社会環境の変化に合ったサービスの提供が求められ、デジタル技術や自動化技術の活用を進めることで、業務の効率化と持続可能な事業基盤の確立を進めています。

相まって、AI技術の進展が私たちの労働環境に与える影響について、その変化に対して労働組合も準備が必要かと考えます。すでに、世界の一部の国ではAI技術をめぐる団体交渉が始まっています。これらの事例は、私たちが今後直面する可能性のある課題や解決策について貴重な示唆を与えてくれていま

す。日本でも、同様の状況が訪れるのは時間の問題でしょう。先進的な事例から学び、どのように対応していくべきかを考えていかなければなりません。

AIをはじめとした様々な技術の進化は必要であり、また止められない流れではありますが、その中でも労働者の権利と利益を守るために、労働組合の存在意義はますます重要になっていきます。

結びに、ドラマでは狭いながら様々な工夫を凝らし、屋上やデッドスペースを生かした暮らしが現代にも活かされ、島内の生活ばかりでなく、労働組合や労働環境も描かれています。

「一島一家」と公務員である主人公が口にしますが、島民同士みんなが顔がわかり、同じ仕事を同じ環境でし、同じ風呂に入り、同じ建物に住み、祭りがあれば仕事を休んでみんなで楽しむ姿もありました。警察官は2人だけ。犯罪も起きなかったそうです。

何故、今回軍艦島にフューチャーしたかという、ドラマの少し前に軍艦島の視察に訪れていました。波の高さや風の有無など上陸の規定をクリアし、居住区などの施設を見る



貴重な体験でした。台風での風水害にはみんな  
なで助け合い乗り越えたそうです。

テレビに映し出されるCGで甦った活気溢  
れた島内は見る影もなく、観光者にいわゆる  
ゴーストタウン化した端島の歴史を語る語り  
べの方からは、今の姿は本物ではないような  
どこかもの悲しさが感じられました。